

# 重度知的障害を伴う自閉症成人に対する衣服管理の自立を目指した支援過程

○吉岡 衆・佐々木 新

(社会福祉法人 クムレ)・(川崎医療福祉大学医療福祉学部)

## 【研究の目的】

障害者支援施設での入所者への支援は、余暇支援、生活支援、不適応行動への支援等多岐に渡る。余暇への支援として村本・園山(2011)、不適応行動への支援として富田・村本(2013)等がある。一方で、生活の支援についての実践報告は少ない。

自閉症者の生活習慣の中で介助が必要になっていることは「洗濯」が多いとされている(橋本ら,1988)。本研究では、衣服管理が困難な自閉症男性を対象にし、洗濯の前段階として衣服管理の自立を目標に行った支援過程を考察する。

## 【方法】

### 1. 対象者

対象者は、施設 B に入所している、重度知的障害を伴う自閉症男性(40代) A であった。言語による要求は「ジュース」「お茶」。口頭での複雑な指示の理解は難しく、慣れ親しんだ 1~2 語文の日常語や指差し等の視覚的指示が理解しやすい。食事、排泄、衣服の着脱は自立していた。

衣服の管理は難しく、衣服をロッカーではなくベッドの上に並べる、他者の居室に自身の衣服を並べる等衣服の所在が不明であることが多い。衣服を片付ける場所が確立されておらず、洗濯を行った際に不適切な場所に片付け、入浴準備が自力で行えないことが予想される為、衣服管理への支援を開始した。

### 2. 手続き

A が洗濯された衣服を片付ける 15 時に支援員が付き添い、各衣服が適切な場所へ片付けられるかを課題分析の手法で記録した。この評価は 3 段階とし、各衣服が一人で適切な場所に片付けられれば正答(Pass)、プロンプトでできれば芽生え(Emerge)、できない場合は誤答(Failure)とした。プロンプトとして、写真への指差しを行った。評価は第一筆者を含める 6 名の支援員が行った。

全 45 セッションを環境及びプロンプトの設定を行った期間ごとに、4 つに分けた。第 1~2 期は、ロッカーの棚(トレーナーとズボンは引出し)に衣服の写真を貼り、写真を手がかりに片付ける

という長年行われていた方法の評価を行った。第 2 期では、「写真を見て」と写真に注意を向けるプロンプトを加えた。第 3 期からは、施設における生活支援の管理の諸事情により居室が変更となった。その際にロッカーではなく、同じ大きさの写真が貼ってある籠を床に並べ、その中へ衣服を片付ける方法へ変更した。第 4 期では、トレーナーとズボン以外の籠の大きさを衣類に合わせて変更した。観察期間は、X 年 3・4・8・9 月の約 4 ヶ月であった。

## 【結果】

表 1 に第 1~2 期、表 2 に第 3~4 期の評価結果を示した。表 1 ではトレーナーとズボンの正答率が高いが、どれも E が混じっていた。第 3 期では、パンツ以外の衣類の正答率が減少していた。しかし 4 期では、トレーナー以外は正答率が上昇していた。

表1. 第1期~第2期の各セッションの評価

行動要素	第1期									第2期										正答率	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		20
トレーナーを片付ける	E	P	P	P	P	E	P	P	P	77%	P	P	E	P	E	P	P	P	P	E	83%
ズボンを片付ける	E	P	P	E	P	E	E	P	P	56%	P	P	E	E	P	P	P	E	P	E	56%
バスタオルを片付ける	E	P	E	E	E	E	E	E	E	11%	E	P	P	E	P	E	E	E	P	P	50%
シャツを片付ける	E	E	E	E	E	E	E	E	E	0%	E	E	P	P	P	E	E	E	P	P	44%
パンツを片付ける	E	E	E	E	E	E	E	E	E	0%	E	P	E	E	E	E	E	E	E	P	22%
靴下を片付ける	E	P	E	E	E	E	E	E	E	11%	E	P	E	P	P	P	P	P	P	P	40%
各セッションの正答率	0% 66% 33% 16% 33% 0%									20% 80% 33%										50%	

表2. 第3期~第4期の各セッションの評価

行動要素	第3期										第4期															正答率	
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45		
トレーナーを片付ける	P	E	E	E	P	E	E	P	P	37%	E	E	E	E	P	E	E	P	E	E	E	E	E	E	E	E	37%
ズボンを片付ける	P	E	P	E	E	E	E	E	P	37%	E	E	E	E	E	E	E	P	E	E	P	E	P	E	P	P	33%
バスタオルを片付ける	P	E	E	E	E	E	E	E	E	26%	E	E	E	E	E	E	E	E	E	P	P	P	P	P	P	P	33%
シャツを片付ける	E	E	P	E	P	E	P	P	P	37%	E	E	E	P	P	E	E	E	P	E	E	P	E	E	P	P	33%
パンツを片付ける	P	E	E	E	E	E	P	P	P	50%	P	P	E	E	E	E	P	P	P	E	E	P	P	P	P	P	50%
靴下を片付ける	P	E	E	E	E	E	E	E	E	16%	P	E	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	P	34%
各セッションの正答率	33%										0% 16% 66% 16% 0% 20% 16% 66%															33%	

## 【考察】

第 1~2 期でトレーナー・ズボンの正答率が高かったのは、その 2 つのみが引き出しであり、選択肢が少なかったからと考えられる。また第 4 期にて、バスタオルやパンツ、靴下の正答率が上昇したのは、同じ大きさの籠から衣服によって大きさを変えた籠にすることで選択肢が減った為と考えられる。一方で写真へ注目するようプロンプトを行っているが、写真が衣服を区別する手助けとなっていないことが窺えた。今後の課題としては、A が衣服を自力で区別できる環境を整えることが考えられた。